

2018年度 学校法人 滋慶学園 東京ベルエポック製菓調理専門学校 学校関係者評価委員会 【最終評価】

【令和元年6月27日実施】

平成30年度自己点検自己評価(平成30年4月1日～平成31年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価		自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価平均		学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1				優れている…3 適切…2 改善が必要…1		
1 育成人材像 目的教育理念	1-1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか	3		<p>本校の理念・目的・育成人材像は、学校経営、教育活動の核となるものとして重要視しているため、具体的に明文化されている。また、事業計画、教育指導要領や学生便覧、HP(情報公開)等を通じて、教職員・学生・外部関係者に対しても公表し、周知されるよう図っている。</p> <p>日々、目まぐるしく変化して行く現代の社会環境において、入学生の多様化、業界の人材養成ニーズに応えるべく育成人材像の見直しを図りながら、変化に対応し得る人材の育成ができるよう取り組みをし、開校の目的、養成目的、学校・教育目標の達成の実現を目指す。</p> <p>質の高い教育を提供する為の「入学者＝定員」を恒常化できるかが課題であり、そのために顧客の価値に合わせた教育の創造が必要不可欠となる。</p>	<p>企業・業界を巻き込んだ「体験学習」を教育体系の中に取り入れている。また、2018年度からライブ配信システムを活用し、札幌ベル・埼玉ベルと本校の3校を繋いで、エリア毎に特色ある授業を発信していく新たな授業形態を始動させた。映像越しではあるが、姉妹校の学生にライバル心を燃やすといった従来見ることが出来なかったシーンを見る事も出来た。新しい授業形態である為改善点もあるが、顧客にとって価値あるものに昇華させていきたい。</p>	2.9	<p>専門学校に求められている、専門職業人の育成が教育理念や目的にそって実践されています。</p> <p>新入学生の気質の変化・多様化も掌握しつつ、入学前の意識の植え付け。また入学後には各関連する業界との連携で、業界が求める人材をいち早く察知し対応を進めています。この対応の中で業界が求める人材プラス技術などを実践的に習得させる教育は高く評価するべきだと思います。</p>	
	1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか							
	1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか							
	1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか							
2 学校運営	2-2 運営方針は定められているか	3		<p>法人としては、事業計画・運営方針を定めることを最も重要視している。その意識で毎年、法人として事業計画・運営方針を定めている。</p> <p>明文化、文章化され定められた事業計画・運営方針を基に、学校運営に関わる全ての人に周知徹底すること、そして、共感してもらうことに、年間を通じ注力していく。</p> <p>作成した事業計画の理解は、各種の研修(教職員・講師)、会議(運営会議・学科・部署別会議、全体会等)を通じて行い、全教職員が納得して学校運営に携わる環境作りを行っている。</p> <p>このことが、学校・学科の教育成果に繋がっていると考えている。常に市場や顧客ニーズに対応した事業計画の作成、あるいは運営方針を示せるよう、これからも作成に努めていく。</p>	<p>事業計画の構成</p> <p>①組織目的(普遍的に学校が目指す開校、組織運営の目的)</p> <p>②運営方針(中期的に組織として目指していく方針)</p> <p>③実行方針(中期的な組織の運営方針を実現するための単年度の方針)</p> <p>④定量目標(受験者、教育成果(中途退学防止、欠席率、資格取得数、就職率、専門就職率等)</p> <p>⑤定性目標(人材育成や組織あり方等定性的な目標についての単年度目標)</p> <p>⑥実行計画(その方針を実現するための詳細な計画)</p> <p>⑦組織図(単年度)</p> <p>⑧職務分掌</p> <p>⑨部署ごとの計画及びスケジュール</p> <p>⑩附帯事業計画</p> <p>⑪職員の業績評価システム</p> <p>⑫意思決定システム</p> <p>⑬収支予算書(5か年計画)</p>	2.7	<p>学校運営は学校法人としての滋慶学園が、総長及び理事長を中心に理事会が経営方針や事業計画を明確に提示しています。</p> <p>また常務会・グループ戦略会議・運営会議から教職員全体を対象とする全体会議などを通じて、学校運営・事業計画が周知徹底されています。</p> <p>人事や人の配置も、アンケート及び各部門からの評価で適材適所の配置と人事評価も適正に行われています。</p> <p>今後は18歳人口の急激な減少と、働き方改革の働く時間と時間外労働の割増賃金の検出など、学校経営の根幹を揺さぶる問題が差し迫っていますので、経営と運営のバランスを取りながら更なる飛躍を期待します。</p> <p>職員の時間外労働時間が減った事は大いに評価できる。</p>	
	2-3 事業計画は定められているか							
	2-4-1 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか	2		<p>意思決定に関しては、重要事項の優先順位が明確である。</p> <p>年度ごとに業務の優先順位を明確にし意欲的に取り組む組織風土が根付いているが、年を追う毎に積み重ねによる業務量の増加により、各スタッフの業務バランスや超過勤務が課題である。</p>				
	2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか							
	2-5 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか	3		<p>採用計画と人材育成のための研修は、システムとして確立され、有効に機能している。採用にあたっては、学園本部が中心となり、採用広報や採用試験を実施している。</p> <p>また、その後の教職員の育成には、OJT制度をはじめ職階に応じた研修を整備している。そして、全教職員は目標管理制度に基づき、成果に応じた人事や賃金決定が行われている。</p>	<p>数字目標を達成する過程の業務や、数字だけでは評価できない業務(例えば、入学式・卒業式担当、行事担当など)も過程を評価できるよう情意考課を導入している。</p> <p>目標は常に、健全な学校・学科運営を実現していけるかという視点で設定し、学校・学科の成果と教職員の成長が結びつくようにしている。と同時に評価もマネージャーで構成される検討会議にて、公平公正に行なっている。また、職員の職場に関するアンケートも実施。理念や目標の理解度、職場満足度、各自の希望などの項目でアンケートを取り、その結果を受けての、職場環境の改善にも着手している。</p>			
	2-6 意思決定システムは確立されているか	3		<p>意思決定に関しては、事業計画・組織図に意思決定ならびに決裁者を明確にしている。</p> <p>また、案件ごとに意思決定までのプロセスはもとより、「何の為に」を議事録に残す事で、手段の目的化を防ぐと共に、現場力を発揮しやすいように努めている。</p> <p>更には、会議ごとに決定事項の進捗をチェックすると共に、都度の議事録を確認し、遅滞や漏れが出る事で発生する機会損失を防止したり、早期に問題発見する事で、解決に努めている。</p>	<p>会議の構成は以下の通り。</p> <p>1. 法人理事会・評議員会 : 最高決議機関</p> <p>2. 戦略会議 : 運営方針の起案会議</p> <p>3. 法人運営会議 : 運営方針の問題を発見・対策立て会議</p> <p>4. 学校運営会議 : 学校の目標達成に向け、発生する問題解決会議</p> <p>5. 学校全体会議 : 決定事項の周知</p> <p>6. 学科会議・部署会議 : 部署の問題解決会議・情報共有</p> <p>7. グループ各委員会会議(広報委員会・総務人事委員会・就職委員会・国家試験対策委員会・広告倫理委員会・個人情報保護委員会・学科別教育研究委員会・災害対策委員会・カウンセリング委員会・オリエンテーション委員会)</p> <p>8. 様々なプロジェクトの会議</p>			
	2-7 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3		<p>専門学校基幹業務システム(IBM社製 i 5(アイファイブ)上に構築)により管理している。</p> <p>管理項目は以下の通り。</p> <p>①学籍簿管理 ②時間割管理 ③成績・出席管理 ④学費管理 ⑤入学希望者及び入学者管理 ⑥各種証明書管理 ⑦求人企業管理 ⑧就職管理 ⑨卒業生管理 ⑩学校会計システム ⑪人事・給与システム ⑫ファームバンクシステム ⑬研修旅行管理システム ⑭寮管理システム ⑮健康管理システム となっている。</p>	<p>特に、学生の教育・就職・学費入金等、学生に関わる情報処理については全て一元化された運営を行っており、学生情報にブレがないようにシステム構築を行っている。システム構築は、グループ内の関連企業である為、学校の実情を理解した上でのシステムとなっている。</p>			

大項目	点検・評価項目	自己評価	自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1			優れている…3 適切…2 改善が必要…1	
3 教育活動	3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	3	毎年、入口(受験生)と出口(業界)のニーズ等の市場調査を基に学科(コース)の課題を明確にして課題を抽出している。 また、業界代表並びに業界団体の方にて構成する「教育課程編成委員会」を定期開催し意見交換を行っている。	カリキュラムの編成に関しては、3つの教育システム(PCP教育システム、CPI教育システム、MMPプログラム)によって、体系的に組み立てられている。 上記より、学科のスタート(入学前)からゴール(卒業後、就職)までに必要な学習内容と学習期間、及び学習ステップを勘案したカリキュラム体系を構築できていると考える。 1. PCP教育システム (P…Pre College、C…College、P…Post College)(※) 入学前から卒業後までの一貫した人材育成のためのシステム。入学前に自分の夢や将来の仕事を見だし(自己発見)、在学中にその夢の実現に向けて変身していき(自己変革)、そして卒業後あこがれの職場でプロとしての自分を完成させていく(自己実現)。そうしたフローでのプロセス全体を総じて呼ぶ。 2. CPI教育システム CPI教育システムは、導入教育(Communication)→専門教育(Professionalism)→実践教育(Independence)というプロセスで学習する「体験学習」に重点をおいた教育システムです。 3. MMPプログラム (M…Motivation、M…Mission、P…Professional) 自立したプロの職業人として業界で活躍するために必要な能力である「モチベーション(動機づけ)」「ミッション(使命感)」「プロフェッショナル(職業的な知恵)」という3つの能力を修得する教育プログラムで構成されている。	3.0	カリキュラムの編成にあたり、業界のニーズを丁寧に調査し、入学者の希望や能力から教育課程及び実施方法を定めています。また実施に当たってはPCP教育システム・CPI教育システム・MMPプログラムの3つの体系的なシステムで、学習内容や学習期間・そして学習のステップにそった教育が実施されています。 学生の成績評価や単位の認定も、教育指導要領や学生便覧に明記されていますので、一人一人が納得のいく評価がなされていますから、目標の設定や意欲の向上にもつながると思います。 目に見える成績評価は高く評価できると思います。  学生の成績評価ばかりでなく、指導教師の授業アンケートを通して教える側の質の向上にも取り組んでいます。学校の場合指導する側が実地する評価は当たり前に行えますが、授業の評価を受けるとなると腰が引ける教員が多いために完全に実施できていない学校が多いですが、その中で確実に授業アンケートを実施している。 この体制が資格試験や免許の取得に繋がっていますので、この点でも高い評価ができます。  入学から在籍中だけでなく、卒業後のビジョンがある事は、とても良いと感じた。  実践的なカリキュラムで学生がチャレンジしやすいと感じました。
	3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか					
	3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	3	教育課程の編成については、毎年学内の編成委員による1次策定の後、有識者で組織される教育課程編成委員会を年2回開催することで更にブラッシュアップを図るよう構築されている。	キャリア教育における教員向け教本である「ロードマップ」の中では、キャリア教育を「キャリア形成段階」「キャリア設計段階」「キャリア開発段階」の3つに分類し、それぞれの段階で「流れ」「課題」「方略」を示している。		
	3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか		これらの教育の評価については、FDC(ファカルティ・ディベロップメント・コーディネーター)という専門の役職を置き、教務部長・学科長と連携を図り編成している。それらのメンバーが主導となり、定期的に学生からの授業アンケートをFDCおよび学科長によるフィードバック面談を実施することで、教育力の向上に努めている。また、評価、分析することで、その時点の業界ニーズに応え、学生に合ったカリキュラムを作成している。	成績評価と単位認定の基準は、学則施行細則はもとより、「教育指導要領」及び「学生便覧」にしっかりと明記し、職員や講師、学生に周知徹底している。また、それらに基づき学生指導・支援にあたっている。		
	3-9-3 キャリア教育を実施しているか					
	3-9-4 授業評価を実施しているか					
	3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	3	成績評価及び単位認定の基準は明確に定めている。基準の遵守は徹底的に行っている。また一方で必要なレベルまできちんと到達させた上で進級、卒業が出来るように、成績不良が予想される学生に対しては、早期段階から補習を実施し、保護者とも連携して不足部分を補う体制を敷いている。	成績評価と単位認定の基準は、学則施行細則はもとより、「教育指導要領」及び「学生便覧」にしっかりと明記し、職員や講師、学生に周知徹底している。また、それらに基づき学生指導・支援にあたっている。		
	3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか					
	3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	3	学科ごとに目標としている資格に対して、100%合格を目標に独自に対策を立て、実施している。特に、製菓衛生師国家試験については独自の対策システムとグループ校との連携で高い合格実績を継続している。	在学中不合格の場合や受験資格を取得の者は、卒業後も合格まで指導していく体制をとっている。資格によっては、通常授業の中に対策講座を入れている。また、通信課程においては時間割に放課後を利用して、特別対策講座を盛り込んで計画的に実施している。		
	3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか					
	3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	3	産学連携教育の強化のため、企業とコラボレーションした教育を展開できるカリキュラム・人材を強化している。 評価体制としては、授業アンケートを通して、各教員の専門性の把握及び評価を行っている。 教職員の質向上の取り組みは、OJTとFD研修を実施している。 また、滋慶学園グループの同分野の姉妹校で組織した滋慶教育科学研究所食文化教育部会の活動では、教育カリキュラムの情報交換をはじめ、技術指導教員の講習会などを定期的に開催している。	人材ニーズの変化や業界そのものの変化に伴う学科の養成目的/教育目的の見直しやカリキュラムの再構築に専断的に関わるファカルティ・ディベロップメント・コーディネーター(FDC)が組織されており、FDC会議の中で学科の教育状況を定期的にチェックする機能を持っている。  また、学科の育成目標を達成するために、教務スタッフについては教務研修を実施し、教授力向上とともにヒューマンスキルの向上も図っている。講師については講師がその分野のスペシャリストであること、また、同時に講師要件を満たしていることを講師採用において重点を置いている。採用決定の講師は、講師会議、科目連絡会を通して、授業運営に対する情報の共有化、成功事例の共有、また、学校側の考え、希望する方向性、養成したい学生像を共有し、問題・情報の共有、解決につなげている。		
	3-12-2 教員の資質向上への取り組みを行っているか					
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか						

大項目	点検・評価項目	自己評価		自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価		学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1				優れている…3 適切…2 改善が必要…1		
4 学 修 成 果	4-13 就職率(卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	3		開校以来就職希望者の内定100%は崩したことなく、就職者数の目標を重点目標として掲げている。毎月15日と月末に、就職内定状況と以下の7つの項目で毎月15日数字・末数字を確認し、問題がある場合の対策を立て実行する。 ・卒業年次在籍者数 ・就職希望者数 ・求人件数(職種別・有効求人数) ・内定者数(学科ごと、月ごとと累計) ・専門就職者数 ・月別内定シミュレーション ・学生就職活動状況表(学科クラス別)	本校は、就職に関する相談室を「キャリアセンター」という名称で設置している。キャリアセンターは、本校に入学を希望する方から、在校生、同窓生まで幅広くキャリアアップ支援(就職支援、生涯学習支援)を行っている。このキャリアセンターと担任教員が連携しながら一人ひとりの就職活動状況を把握しながら個別支援を行っている。キャリアセンターの目的は、 ① 入学希望者に卒業後の就職イメージを持ってもらう: 入学希望者には、具体的な仕事の内容を理解してもらい、安心して学校を選んでもらえるようにする。 ② 在校生に対する就職支援: 在校生には面接時におけるスキルアップ指導や、筆記試験対策の実施等をサポートし、プロ意識を養い育てていく。 ③ 同窓生(卒業生)のキャリアアップ支援: 卒業後の同窓生には就職した後にさらなるキャリアアップを考え、マネジメントやコーチングなどの実務レベルのスキルアップや、再就職支援を実施している。	2.9	学修成果は卒業時に、学生が希望する就職先に就職できるか。また就職したのちに職場で貴重な人材として活躍しているかにかかっていると思います。それを考えると開校以来の就職率が毎年100%と言う数字は、資格習得ばかりか業界の評価も高いことを示しています。この数字を維持する努力と結果は高い評価をすべきだと思います。	
	4-14 資格取得率の向上が図られているか	3	開校以来、各学科のカリキュラムは、専門資格100%取得を重視して設計されている。	資格取得者数及びその推移の把握に関しては、各学科で ・自校の結果及び推移の把握、データ化 ・他校の結果及び全国の合格率の推移のデータ化を行っている。また、グループ校の同学科で構成される教育部会を設置し、100%合格のための仕組み作りを行っている。				
	4-15 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	2	業界で活躍している卒業生は10年分のみであり、業界に出て間もないという事もあり、特筆だった功績はなく、今後に期待したい。今後は卒業生の活動を確実に学校として把握することと、卒後のフォローアップ体系を構築することで離職防止等にも役立てていきたい。	開校してからの歴史が浅い分、まだ卒業生に際立った業績などはないが、毎年卒業生に就業状況アンケート調査を実施し、状況把握に努めている。				

大項目	点検・評価項目	自己評価	自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1			優れている…3 適切…2 改善が必要…1	
5 学生支援	5-16 就職に関する体制は整備されているか	3	<p>キャリアセンターと担任教員が連携しながら一人ひとりの就職活動状況を把握しながら個別支援を行っている。</p> <p>また、各科で就職講座をカリキュラムに組み込んでおり、そこで就職の具体的な活動に関する指導を行うと同時に、キャリアセンターにおいても随時相談に乗れる体制を整えている。</p> <p>尚、就職支援は1年次後期より下記のフローで行っている。</p> <p>STEP1: 就職講座開講(就職活動ガイダンス、動機付け、企業研究)</p> <p>STEP2: 自己分析・履歴書作成指導</p> <p>STEP3: 現場実習・業界訪問</p> <p>STEP4: 就職スタート行事(就職結団式・業界模擬面接会)</p> <p>STEP5: 学内企業説明会・選考会</p> <p>以降は随時 個別活動支援実施</p> <p>また、離職防止への取り組みを強化するために、学生個々と企業の特徴を踏まえた就職先の提案(マッチング)の取り組みの他、最低賃金や福利厚生などのチェック、奨学金の返還を踏まえたマネー教育などにも力を入れている。</p> <p>効果測定のために、卒業後1年以内の離職状況を調査し、実態把握と対策を講じている。</p>	<p>【WEB就職システムの活用】全国にある滋慶学園グループの求人情報がキャリアセンターで閲覧することができる。各校で同じ分野の求人を共有することができ、学生に対して多くの情報を提供することができる。また実習先や卒業生の情報を活用することができる。</p> <p>【学内企業説明会の実施】企業の採用時期に合わせて開催し、学校に採用の担当者をお呼びし、面接試験などを行ってもらっている。</p> <p>【留学生の就職支援】 2014年より開始された日本料理普及事業に基づく特定活動ビザの取得サポートを実施し、留学生の就業支援を行っている。</p>	3.0	<p>学生一人ひとりに担任教員が的確に就職活動の個別支援をする。同時に学校のキャリアセンターでも、企業の担当者を招いて面接試験の準備をしたり就職状況の情報や相談窓口を開設するなど、積極的な支援は学生のみならず保護者にとっても安心できる体制が整っています。</p> <p>また留学生への対応や学生寮の設置・健康管理の支援も行き届いており高く評価できます。</p> <p>できれば留学生の場合には、出身国によって宗教や生活習慣の大きな違い。さらに価値観の違いもあります。技術の習得ができて将来、日本社会に溶け込んで生活を夢見る学生も増えると思いますので、言語教育も必要ですが生活習慣教育も考える時代かと思えます。</p> <p>学生、留学生の個々の特性を理解し、対応しようという姿勢が良く見える。</p>
	5-17 退学率の低減が図られているか	3	平成30年度の中途退学率は6.5%であり、進級率は89.6%であった。昨年度の進級率と変化がないことから改善は出来ているとはいえない。将来的には進級率95%を実現したい。	問題学生の中途退学理由分類を分析し、状況にあわせた学生支援、指導及びクラス運営を実施している。 また、問題解決をシステム(マニュアル)化し、教育力の向上を図っている。		
	5-18-1 学生相談に関する体制は整備されているか	3	本校の学生相談室は、「滋慶トータルサポートセンター(以下JTSC)」という名称で学生生活全般における不安や悩みの相談に対応している。センターには専属のカウンセラーが対応しており、学内との連携を図りながらサポートする体制が整備されている。 また、学内に留学生支援センターを設置し、留学生特有の問題の解消に努めさせると共に、中国語圏の学生が多いので中国人スタッフを配置し、信頼獲得、不安解消にあたらせている。	JTSCを設置し、①精神面②学費③健康面などの相談をいつでも受け入れる体制は既に整備され、しかも有効的に機能していると考えている。 また全教職員が「JESCCカウンセラー資格」を取得し、カウンセリングマインドを持ち相談に乗っている体制を築き上げている。 カウンセリング研修では学園内組織(滋慶教育科学研究所)が主催する「JESCCカウンセラー資格」を全員に受講させ試験を実施することでカウンセリング技術の均一化を図る。 心理学/カウンセリング基礎知識の習得を行うことで、学生相談室との連携が非常にスムーズに図られている。		
	5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか					
	5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	3	<p>学生の経済的側面の支援は、かなり高いレベルで出来ていると考えている。特に、グループ内資格(ファイナンシャルアドバイザー[F.A])を取得したスタッフによる学費相談会の実施によって、事前に学費相談を受けられ、資金のやり繰りをアドバイスできている。 奨学金延滞率の公表に伴うリスクも勘案し、学生には徹底して「返済義務」についての教育を行っている。</p> <p>医療機関「慶生会クリニック」とも連携体制を構築しており、学生の心身に対するサポートは万全の状態といえる。</p> <p>学園グループで運営しているジケイスペースかさい学生寮本部の学生寮(約900部屋)を中心に、近隣の提携不動産との連携により住環境の整備を確立し手いる。</p> <p>クラブ活動の一環として、接客スキルとサービスマインドを体験を通して学ぶ「学生スタッフ」活動を組織し運営している。 また、不定期で企業課題をゼミ形式で実施し正課外の産学連携教育を実施している。</p> <p>学生の夢を叶えるためには、学校のみならず家庭の協力が大変重要と考えている。学園の基本方針に「保護者からの信頼」を掲げ、学園全体でその信頼獲得にむけ、様々な施策を実行している。</p>	<p>主な経済支援制度</p> <p>学校保健安全法に基づき行われている定期の健康診断は4・5月中にすべての学生が受診することになっている。教職員は4～6月中に受診することになっている。また、学校医「慶生会クリニック」や「滋慶トータルサポートセンター」が学生の体と精神面の健康管理をしており、学生の健康管理を担う組織体制は確立されている。</p> <p>学園で学生寮を完備しており、学生寮本部の生活アドバイザーが各寮を巡回し生活環境の整備や学生の支援ができる体制ができています。</p> <p>クラブ活動の一環として、接客スキルとサービスマインドを、体験を通して学ぶ「学生スタッフ」活動を組織し運営している。</p> <p>日々の出欠状況や生活面で気なることは即時に保護者と連携をとる体制や学期終了時には成績通知書の発送など常に保護者にも就学状況が分るような取り組みを行っている。</p>		
	5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか					
	5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか					
	5-19-4 課外活動に対する支援体制は整備されているか					
	5-20 保護者との連携体制を構築しているか	3	学生の夢を叶えるためには、学校のみならず家庭の協力が大変重要と考えている。学園の基本方針に「保護者からの信頼」を掲げ、学園全体でその信頼獲得にむけ、様々な施策を実行している。	日々の出欠状況や生活面で気なることは即時に保護者と連携をとる体制や学期終了時には成績通知書の発送など常に保護者にも就学状況が分るような取り組みを行っている。		
	5-21-1 卒業生への支援体制はあるか	3	卒業生を正会員とした同窓会組織がある。同窓会の目的は、会員相互の親睦、キャリアアップと母校教育の振興に寄与することである。 また、卒後の資格取得サポートや再就職支援体制についてもシステムが確立されている。	<p>【生涯就職支援システム】 キャリアアップを目指す卒業生や転職を希望する卒業生に対して、キャリアセンターでは卒業後も就職の支援をしている。</p> <p>【国家試験フルサポート制度】 国試取得に向けて、卒業後も対策講座を無料で受講できる体制を整備している。</p>		
5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか						
5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか						

大項目	点検・評価項目	自己評価	自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1			優れている…3 適切…2 改善が必要…1	
6 教育環境	6-22 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	3	当校の施設設備は以下の基準を全て充足している・ ・専修学校設置基準 ・製菓衛生師・調理師養成施設設置基準 ・各種資格認定団体認定校 設置基準 ・消防法に関する基準 ・バリアフリー条例基準 ・その他の建築基準 実習授業に力を入れている本校にとって、学内実習室が実際の現場で使われている設備を揃えていることが、必要不可欠である。実践教育のための学内施設、設備はかなり高いレベルで整備されていると考えている。	スペシャリストとしての技術を磨くための最新施設や機器を完備し、プロの現場と同じ環境で実習授業を受けることで、学生の学習意欲を喚起し、専門就職、資格合格率向上に繋げている。 授業以外でも、個別の課題に取り組む環境を用意している。	3.0	教育環境は学校の設置基準に適合し、さらに技術を習得するために必要な最新の施設や機器を完備しています。 さらに防災に備える機器・備品も整備され、防災マニュアル・教員の役割分担もしっかりしています。また防災マニュアルにそった防災避難訓練は、いざという時の備えの大切さ命の大切さも学生に教えていると思います。
	6-23 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	3	多様化する学生のニーズに応じて自ら学外実習の希望先を提出してもらい業界に打診して学外実習を選定している。海外研修には教育提携校である「フランス・ヴァローナ」「イタリア・イチフ」のハイレベルな教育機関での実習を組み込み学習効果の高いプログラムを構築している。カフェビジネス科もハワイでの海外研修の実施を試みたが最低人数の集客が出来ずに中止となる。海外研修の渡航先に関しては、学園の国際事業部と連携をして各学科の目指す業界に対して一番の先進国であり、そこでの活動を十分に体験出来ることを前提に選定している。海外研修は、この国際教育という理念に基づく主要な教育実践の場と言える。海外研修は、学園の考えでもある「国際教育」を実践するものである。 学外実習については実習概要から承諾、事前・事後教育、研修ノート、評価方法に至る一連の流れをマニュアル化している。 また、学外の実習中における事故に関する契約も先方企業に調整の上、締結している。	学外実習・インターンシップ・海外研修を行うことで、学園の理念である「実学教育」「人間教育」「国際教育」の全てと関わることになり、その教育効果は大きいものと考えている。 今後は学外実習先における機密事項の取り扱いやSNSに関するモラル教育を充実し、実習生が個人情報保護をはじめとしたコンプライアンスについても理解を深める教育が必要である。		
	6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか  6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	3	施設設備の耐震化については適切に対応している。 防災に対しては、マニュアルの整備、スタッフの役割分担、学生への情報提供など体制の整備はされている。 救急時における機器・備品も準備されている(全学生人数分の3日間分の食料、簡易トイレ、備蓄水、発電機、AEDなど)。 設備・機器のマニュアルをそれぞれの設置している教室に常備し、情報伝達に役立っている。 学内での盗難予防の観点からも、ロッカーの施錠の徹底、学生の忘れ物発生予防に授業に入る講師全員が意識を高め啓蒙活動に勤める。	防災、火災訓練を実施し、学生、教職員、講師へ非難手順や方法を指示し実施している。 救急時における知識の習得と意識付けは出来ている。 ・防災訓練の映像化(DVD)がされており、学生・教職員・講師全員が視聴し、防災の意識を高めている。 ・すべての校舎入り口付近に自動体外式除細動器(AED)を設置している。月に一度自動体外式除細動器(AED)の点検をしている。		
7 学生の募集と受け入れ	7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取組んでいるか	2	本校は、東京都専修学校各種学校協会に加盟し、同協会の定めたルールに基づいた募集開始時期、募集内容(推薦入試による受け入れ人数等)を遵守している。	体験授業を軸としたオープンキャンパスを複数回参加、また、業界と連携したオープンキャンパスを適宜実施し、教育内容や職種への適正が確認できるようにしている。 その上で、早期出願者に対し、出願時のモチベーションを入学時まで維持できるように「プレカレッジ(入学前教育)」を実施している さらに、留学生については、留学生向けの説明会を実施し、適切な進路指導を行なっている。	3.0	今後さらに18歳人口の減少・他の専門学校との競合や大学との学生募集での競争が激しくなり、学校の存続を賭けた募集となります。よりきめ細やかな高校への働きかけと、学校見学に来てくれた生徒及び保護者に信頼と安心を与える説明が必要かと思えます。 また現状の教育成果などの情報提供は重要です。さらに高校との連携授業などで、滋慶学園の認知の徹底も考える時代だと思えます。 入試の選考は公平に的確に行われており、学納金も教育目標や人件費・実習費・施設管理費や運営費を考えた必要な金額と評価できます。
	7-25-2 学生募集活動は、適正に行われているか					
	7-26-1 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	3	学則を基にし、募集要項で明記した入学選考方法通り選考をしている。 入学選考規定については学内での選考規程を基にした募集要項を発行し受験生に適切に告知している。 各回の選考に関しては、スケジュールを募集要項に明示し、決められた日程に実施している。	各回の入学選考は学内で組織する選考委員会により基準を基にした合格判定を適切に行っている。  また、各回の受験者・合格者の実績は台帳管理している他、入学手続き完了管理(入金管理)も同時に行うことで応募者数の予測に生かしている。		
	7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか					
7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	3	学納金は、その学科の教育目標達成(卒業時の到達目標)を目指した学校運営に必要な金額であり、人件費(講師・教職員)、実習費、施設管理・運営費等に充てられている。 毎年、各学科において教材及び講師の見直しを行っており、諸経費の無駄な支出をチェックしている。各学科から、素案として提出されたものを、最終的に学校事務責任者の事務局長がチェックして、厳正に確定をしている。	入学以前の募集要項上において、事前に年間必要額を明示しているため、保護者に関しては年間支出計画が立てやすい状況にある。 学費に不安のある受験生については、専門部署のスタッフが個別に対応し、納入計画をたてる等の対応を行っている。			
7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか						

大項目	点検・評価項目	自己評価	自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価	学校関係者評価委員よりの御意見		
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1			優れている…3 適切…2 改善が必要…1			
8 財務	8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	3	5年間の中長期的事業計画を立て、その中で収支計画を作成している。5年間の計画を立てることによって、短期的視点だけではなく中長期的な視点に立って学校運営を計画することになる。 また、チェック機能を充実させており、常に情報の把握から分析できる体制を整えている。 5か年計画に基づいた収支計画は中長期的な視点で物事を考えることができるため、財務基盤の安定に資するための大規模な計画もじっくりと立てることができ、この方針は今後も続けていこうと考えている。	財務基盤の安定を図るために、指揮命令の系統を明確にし、計画(予算)の確実な遂行、予算と実績の対比により計画通りに実行されているかを確認する。 このような体制により、厳しいチェック及び評価が行われ、いわゆる債務超過や資金不足に陥る状況にはなっていない。そのため、中長期的には財務基盤は安定し、本校の学校運営も安定していると考えている。	3.0	滋慶学園として法人が主体となり、法人運営や学校経営に携わっています。大きな法人として計画的に長期・中期の計画で生徒募集・学校の維持管理・教職員の人件費などの収支のバランスを考えていますので財務体質はしっかりしています。また公認会計士による監査、これを理事会・評議委員会で報告承認するシステムが構築されていますので、財務に関してもしっかり問題はありませんで高い評価ができます。		
	8-28-2 学校及び法人運営に係る主要な財務数値に関する財務分析を行っているか							
	8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	3	収支計画は各学科の入学者数目標と予測、在籍者目標(中途退学・進級者)と予測から綿密な計画を立てている。学校、学科を取り巻く環境を常に考慮し、単年度毎に見直し、健全な学校運営・学科運営が出来るよう努力している。収支計画(予算)は5年間作成され、そのうち次期1年間の予算については具体的に作成する。また予算編成については、学校・学園本部・理事会・評議員会と複数の目でチェックするため、より現実に即したものになっていると考える。				当初予算→四半期予算実績対比→修正予算→決算という流れの中で、収支計画が実現可能なものとなり、財務基盤の強化につながっている点が特徴として挙げられる。	将来大きな影響があると思われる、私立の働き方改革の対応はいかがでしょうか。国公立では調整手当や在校時間・変則労働時間で対応が可能ですが、私立の学校では残業手当・振替休日の対応と過剰労働を避けるために人手を増やすように監督署の指導が始まっています。大きな財務負担を強いられている法人もありますので、十分な対応も必要かと思われます。
	8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか							
	8-30 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	3	体制を整えるべく、学校法人滋慶学園は公認会計士による監査と監事による監査を実施し、その結果を監査報告書に記載し、理事会及び評議員会においてその報告をしている。最終的には5月に実施される理事会及び評議員会に計算書類が適正であるかどうかを記載した監査報告書を提出している。				主なフローは以下の通り。 ①取引→②仕訳→③帳簿→④総勘定元帳→⑤試算表→⑥計算書類作成→⑦公認会計士及び監事の会計監査→理事会・評議員会による承認→行政へ報告	
8-31 私立学校法に基づく財務公開体制を整備し、適切に運用しているか	3	法律改正に迅速に取り組み、外部関係では寄附行為の変更認可及び行政への届出、そして内部関係では財務情報公開規程及び情報公開マニュアルを作成し、財務情報公開体制を整備している。 尚、平成25年度より財務状況をホームページによる公開を開始している。	<体制> 1. 法人統括責任者 (常務理事) 2. 学校統括責任者 (学校運営の現場責任者＝事務局長) 3. 学校事務担当者 (学校の経理責任者＝学生サービスセンター長)					
9 法令等の遵守	9-32 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	3	法令を遵守するという考えを学園の方針に掲げ、教職員全員でその方針を理解し実行に努めている。法人理事会の元に、コンプライアンス委員会を設立し、学校運営が適正かどうか判断している。 現状では、学校運営、学科運営が適正かどうかは、各調査においてチェックできるようにしている。 自己点検及び学園内でのコンプライアンス委員会による監査によって適正な運営であるかチェックしている。	(1)組織体制 ①財務情報公開組織体制(あり) ②個人情報管理組織体制(あり) ③広告倫理管理組織体制 ④地球温暖化防止委員会 ⑤進路変更委員会 (2)システム ①個人情報管理システム ②建物安全管理システム ③防災管理システム ④物品購入棚卸システム ⑤コンピュータ管理システム	3.0	学園全体で法令遵守の姿勢があります。学校運営や学科運営、成績評価や教職員の勤務なども設置基準を厳守し適切に運営がされています。また大きな問題となる個人情報の管理体制も、個人情報管理の認定を受けライセンスを更新するなど情報の漏洩のない体制づくりは大いに評価できます。同時に学校の自己評価・学校関係者の評価結果を適時に公表している姿は、さらに問題を洗い出して今後の発展につなげるとの意欲と誠実さが感じられることも評価できます。		
	9-33 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	3	全ての役員・教職員・講師が個人情報に関する法規を遵守し、個人情報保護に関する基本理念を実践するために「個人情報保護基本規程」を構築し、社会的要請の変化にも着目し、個人情報保護管理体制の継続的改善にも取り組んでいる。 学校という業務上、日々、大量の個人情報を扱っている。その管理においては外部機関の「TRUSTe」より国際規格の認証を獲得し、毎年個人情報保護管理状況についての検定を受け、ライセンスを更新しホームページ上に明記している。また、教職員研修、学生への教育を徹底し、情報漏えいのないよう努めている。	主な事項は以下の通り。 ・適切な個人情報の収集、保管、使用、開示及び提供に関する事項。 ・保管している個人情報の保護・修正・変更に関する事項。 ・対外的な当校の個人情報取扱についての周知、問合せ・苦情受付に関する事項。 ・教職員への教育・研修、周知徹底に関する事項。 個人情報を取り扱う業務の外部委託先については、「選定チェック表」により審査をし、業務委託時には「業務委託契約書」に保護を明記させ「個人情報保護誓約書」を提示させている。 個人情報保護最高責任者資格(認定CPO資格)を取得した職員を配置			ここ数年、働き方改革の一環で中学校及び高等学校の部活の時間が大幅に制約されつつあります。生徒の部活動時間として部活動顧問の働く時間が主であります。私学の場合には残業手当などの経営と直結する案件でもあり、法令遵守は大きな課題です。そこで滋慶学園の強みを活かして、放課後や土日の部活動時間に、部活動の補助としての学生派遣を考えて見るのもいいと思われれます。 法令遵守と保護者や生徒の部活動に対する熱望が強くなっていますので、部活動にも顧問にもプラスとなり、中学生や高校生にも大きなプラス材料だと考えます。	
	9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	3	開校した平成21年度より私立専門学校評価機構に加盟し、自己点検・自己評価に関する情報収集と準備を進めてきた。昼間部学科の卒業生を輩出した平成23年度より自己点検評価を開始した。 平成25年度より自己点検評価と学校関係者評価、そして評価結果の公表の整備をすることができた。 今後は評価を基にした改善についての活動を活発にしていこう。	平成25年度より学校関係者評価委員会を設置し、学校関係者評価の整備を開始した。また、同時にHPIにより評価結果の公表に向けた取り組みも開始した。			リテラシー理解度テストは合格で終了では無く、定期的にチェックする必要がある。	
	9-34-2 自己評価結果を公表しているか							
9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか								
9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか	3	教育情報の公開に関しては、学校案内及びホームページにて適正に公開している。ソーシャルメディアMIXの構築を推進し様々なソースから本校のHPIに流入できる経路を構築している。	公開は下記のHPIにて行っている。 <a href="http://www.seika.belle.ac.jp/about/jyouhou">http://www.seika.belle.ac.jp/about/jyouhou</a>					
9-35 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか								

大項目	点検・評価項目	自己評価	自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1			優れている…3 適切…2 改善が必要…1	
10 社会貢献	10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3	<p>本学園はミッションの1つとして「国際教育」を掲げ、国際教育に力を入れている。本校ではパティシエ科がフランスのチョコレートメーカー「ヴァローナ社」、調理師科がイタリアの調理教育機関「イチフ」と提携し、学生の研修を実施している。</p> <p>また、留学生の募集に関しても海外に事務所を構えるとともに学内にも専門部署を設け、入学相談から、入国手続きまで留学生が安心して相談できる体制整備に取り組んでいる。</p>	<p>留学生在籍者数が全学生数の25%であり、国際色の豊かな学校となってきている。</p> <p>また、留学生サポートの一環として、中国(上海)における同窓会を初めて実施した。これがきっかけとなり、現地法人への内定を獲得するに至った。</p>	3.0	<p>学校を地域や高校生ならびに保護者の方知ってもらうためには、さらに積極的な呼びかけと高校に向いての出前授業も必要かと思います。</p> <p>海外からの留学が増加傾向にある実態がありますから、留学生には技術の習得・日本人の学生には外国語の習得、近隣地域の方には外国語にも触れあえる学校というような戦略も必要かと思います。</p>
	10-36-2 国際交流に取り組んでいるか					
	10-37 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	3	<p>ウェディングケーキの製作、高校の文化祭での出店等に必要な材料、物品等の貸し出し、合わせて実習室の貸し出しを行っている。</p>			